

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームこころ
(ユニット名)	ささやきの小径・さえずりの小径
所在地 (県・市町村名)	大阪府守口市北斗町10番1号
記入者名 (管理者)	西 三友紀
記入日	平成21年11月25日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者本位の介護サービスの提供と地元の人々とのつながりを重視した理念を掲げ、事務室・応接室・下駄箱上に設置している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はスタッフ会議において、運営理念の具体的方針を示し、日常のサービスに生かせるよう積極的に取り組み、スタッフ採用時・採用後のオリエンテーションにてその理解を深めている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域との運営推進会議等を通じ、地元の人々との係わりの必要性を説き、理念の具体的説明を行って、その理解を深める機会を作っている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩や外出時に、スタッフをはじめ入居者自ら声を掛け合い、日常的なお付き合いの出来る機会を持つよう努めている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや催しに参加し、今年はおもちつき大会・防災訓練において、地元住民の方々と一緒に企画・準備に参加し、交流がより親密になってきている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の代表者を行う運営推進委員会を通じて、昨年にも増して積極的に協力出来る体制をとっている。又、地域高齢者に役立つことがあれば協力する旨を申し出、今回は防災訓練・もちつき大会への企画にも参加させて頂いた。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>運営者・管理者は、全スタッフの意見を聞き取りまとめ、幹部職員による自己評価を行った。又、外部評価の結果については全スタッフに配布し、改善対策に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>当ホームの現状と希望を報告して、サービスの向上に生かす意見具申を頂くよう働きかけている。又、当ホームのたよりを発行し、地元の方々に回覧頂くようお願いしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護保険制度・サービス及びその他社会福祉サービス等の諸問題について、高齢者介護室・生活福祉課等の担当者と連絡を取り、意見交換を行っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>特に成年後見人については、社会福祉協議会・弁護士の協力を得て学ぶ機会を持ち、入居者2人が成年後見制度を利用した。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者が主となり、言葉の暴力等虐待が生じないよう異常の確認を行っている。スタッフ会議において、受け止め方には入居者個人個人に差のある事の共通理解を深めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を行う際、重要事項の説明を充分に行い、理解頂けるまで説明を行っている。契約においても同様、納得頂けるまで説明を行い締結している。契約解除においては、医療的観点を重視し、主治医・看護師の意見を踏まえた上で家族が当人の将来を想定し、より良い生活・療養状況を鑑みた方策を共に考え、対策を重ねている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者や家族と話す機会を持つよう心がけ、家族会・推進委員会で発言頂ける環境を整えている。又、ご意見箱を設置し、意見や不満・苦情の言える状況を整えている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時には、介護記録を見せ利用者の近況を報告している。些細な異変のある時は速やかに家族に連絡し、その状況をお知らせしている。ホームたより「こころのたより」を発行し、情報を提供している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者・家族との信頼関係を重視したケア担当が、気軽に意見や苦情の言いやすいよう工夫している。時には管理者が希望や意見を聞くようにしている。又、家族会が意見・苦情の受け皿となり、運営者・管理者は運営に反映させている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>幹部スタッフ5名を選出し、スタッフが意見の言いやすい幹部スタッフに日常的業務の中で個人の考えを言える環境を作っている。又、スタッフミーティングを月1回開催し、意見や提案を集約しその方策について話し合っている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務表は予め利用者の状況を把握したシフトを作成しているが、スタッフ確保の必要な時は、スタッフの協力と理解の下でケアが行われている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者の生活並びに精神面に留意して担当スタッフを決め、密な対話を持ち信頼関係を深めることで、常時安心感へ繋げられるよう配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	幹部・中堅スタッフ5名による職場内教育(OJT)を充実し個人指導を行っている。21年度教育研修要領を作成し、運営者から指定する研修・資格取得の為の助成金及び指定図書 の斡旋、並びにグループ研修においてスタッフの育成に努めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は広域での同業者との交流を図り、管理者は地域他施設の長との交流、ケアマネはケアマネ会議を通じて交流を図っている。スタッフは問題意識をもった課題について他施設の介護実態の見学や勉強に参加している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフの悩みや苦情を言いやすい・相談しやすい幹部・中堅スタッフによってストレスの軽減を図り、必要に応じて運営者に報告し改善を図っている。幹部・中堅スタッフは、運営者とコミュニケーションを密にし当人の負担軽減も図っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、管理者と一体となって運営状況を把握し、スタッフの仕事ぶり・勤務状況を把握している。又、運営者と管理者が各スタッフ個人個人と働き易い環境・モチベーション向上の為の面談を年2回行っている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時において本人・家族から要望を聞き、体験入居を通じて本人からの意向を確認するようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時・体験入居期間において家族と面接の機会を多くし、御家族の状況と立場を理解するよう努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話・面談等でグループホーム対象でない方には他施設及び在宅サービスについての情報を紹介し、当人に最適と思われるアドバイスをしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人及び家族との面談の機会を持ち、ホームの案内を通じて雰囲気を感じ取って頂き、本人の意向で体験入居を行い、よりホームの雰囲気に馴染み充分な理解を得て入居となるよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的に掃除・洗濯・調理・片付け・買い物等を共に行なうよう心がけ、自分で出来る事はして頂き、悩みを聞いたり職員が教わったり、共に共感しあえるよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時・電話等により本人の状況を詳しく伝え、家族の意見や要望をしっかり受け止め、金銭的な事も含めて、包括的に援助出来るよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の来訪時には、居室にお茶・コーヒー等をお持ちして話しやすい雰囲気作りを行い、時にはスタッフがその会話の中に入り、より良い関係作りに努力している。又、本人・家族と一緒に食事や買い物の機会を持って頂くよう働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店に買い物や美容室に行く。又、友人・知人の方々が気軽に遊びに来てもらえるようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の性格を判断し、又、利用者個人から悩み等を聞いた際には速やかに対応し、散歩やレクリエーション等を通して利用者同士が関わり合えるよう努めている。又、必要に応じてユニット間の交流を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても入院中の方においては面会や家族との連絡をとり、生活についての不安を軽減出来るよう配慮している。ホームを退所されても家族が来所されたりと交流は継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話等からも本人の思い・希望等は介護記録へ記載し、申し送りも行っている。家族への報告や情報交換もし、必要に応じてケース担当中心にカンファレンスを行い、個別支援の項目としてスタッフ全員で取り組んでいる。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居契約時、アセスメントシートに基づき、本人や家族から出来るだけ話を聞くようにしている。入居後も折に触れ、情報を集めるように心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	モニタリング・アセスメントを繰り返し、現状を把握すると同時に、主治医・看護師による医療的な意見も踏まえ、トータルケアサービスが実施できるよう努めている。又、家族へも報告し確認の上、一緒に考えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	随時ケース担当・ケアマネを中心にスタッフ間でカンファレンスを行い、又、必要時には本人・家族にも参加いただき、可能な限り本人の意向に沿え、より良い生活を送られるよう考慮している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状況変化を毎日記録し、見落としの無いよう確認しながら、状況の変化に応じて随時見直しをしている。又、急激な変化があればかかりつけ医・看護師等専門家の意見を聞き、家族とも相談してその都度見直しを行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤者・夜勤者間で密な申し送りを行い、入居者の状況把握に努め介護計画の見直しに活かしている。又、申し送りノートを活用でスタッフの周知徹底を図っている。医療的ケアにおいては、受診記録を介護記録に添付し、服薬の変更や経過がわかるよう工夫している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、かかりつけ医の受診送迎や同伴など家族の要望等相談をしながら行なっている。又、入院した場合でも看護師が病院と連絡を取り、出来る限り本人・家族への負担を減らせるよう早期退院の支援など、柔軟にかつ速やかに行なっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	老人会・自治会に加入し、散歩や買い物時等を通じて、理解を深めていただくよう努めている。又、看護学校の実習生の受け入れを行ったり、年1回の行政からの介護相談の場としてもホームを提供している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	定期的にケアマネ連絡会に参加し、他事業所ケアマネとの意見・情報交換により、近隣のサービス事業者の特性等を知る事で、利用者に必要なサービスの提供へと繋げている。現在、2人の方が利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ケアマネ連絡会を通じて、地域包括支援センターとも情報収集・意見交換を行なっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を踏まえ入居契約時に説明を行い、今までのかかりつけ医か提携医療機関にするかは本人・家族に選んでいただいている。契約医療機関の定期往診を受け、その他にかかりつけ医をもたれる方は、かかりつけ医が往診したり、連絡を蜜にししながら必要に応じて心身の状態をより把握していただけるよう家族の受診への付き添いも依頼している。受診後は、家族より看護師が報告を聞き、受診記録に記載しスタッフへ申し送っている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけ・会話には人生の先輩として常に心に留めて対応している。介護記録は固有名詞の記載は避け、当該本人・家族にのみ開示している。個人情報保護の重要性を認識し、重要書類は鍵のかかる書庫に保管している。職員には誓約書を取っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者個人個人の禁忌である言葉や態度は全スタッフに周知しており、自分の意思が出しやすいように配慮して自己決定を促し、安定した生活を営めるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人の生活のペースを把握し、サービスの実行を図る前に必ず本人の意思確認を行なうよう徹底している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの美容室や理容室に同伴し、又、希望した洋服店や化粧品店に付き添い、家族の協力の下、その人らしい身だしなみが出来るように支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・配膳・片付け等は利用者と一緒にやっている。利用者と調理を行なう事で、食に対する好み・味付け等をより知るようになり、食事は利用者との間に入り会話のある食事時間をとるよう努めている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医療上、心身への影響がない限り制限を行なわないようにしている。又、家族の同意の下で本人が好む嗜好品を本人が選べるよう買い物の付き添いも行なっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を用い排泄パターンを把握し、出来る限り自立していただけるようポータブルトイレ等の使用も適宜行なっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1階にはガラス越しに見える中庭を設置して入浴を楽しめる雰囲気作りをしている。入浴の目安は個人ごとに決めているが、本人の意向や体調・精神面を考慮した入浴支援を行なっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自分の時間を持っていただき、利用者個々の体調に合わせた休息をとって頂いています。夜間は消灯時間を決めておらず他の方に迷惑のかからない程度で楽しみ、夜間巡回をして安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々生活を送る上での習慣となる家事参加を促し、個人が好むレクリエーション活動を偏りなく行なうようにしている。季節の行事を催したり地区の行事に参加頂き、その時の利用者の反応・言葉から気晴らしの程度を把握する。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つ事を希望し、買い物時には職員が同伴して買い物の楽しさと価値のわかる支援を行なっている。家族が要望された場合はホームが管理し、本人の希望で買い物に同伴するようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	健康状態やその日の利用者の希望を踏まえ、散歩・買い物・美(理)容院等の外出支援を行なっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食、又、季節ごとの外出を行なっている。家族の協力を得て、入居者の希望がかなえられるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をされるのを支援している。又、年賀状や暑中見舞い等を出されるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限はなく、ご希望時にはお食事・宿泊も出来る体制をとっています。又、家族会や地域役員の方々に気軽に訪問してもらえよう声かけを行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営方針にうたい、家族・地域住民にも公表して個人の尊厳を重視した介護に努め、職員には周知徹底して一人ひとりの自由な生活が出来るケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、建物入口は暗証番号による施錠をしているが、各ユニットの扉は昼間は開放している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	自由にリビングで過ごされている時は少し離れた所より見守り、居室に居られる時は必ずノックと声かけを行い、プライバシーと安全面に配慮した様子観察を行なっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日常的に使用している包丁やナイフ・ハサミ等は使用後施錠の出来る場所に保管し、又、定期的にフロア内を巡回して危険なところはないか環境整備にも努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや事故報告書などに記入し、看護師から指導を受け個人に注意を喚起する等、事故防止を話し合い共有して取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当のマニュアルを用意し、職員に配布している。又、看護師の充実を図り入居者のための対処方法の指導を受けている。同時に、実際行なった急変時の適切な処置・対応を振り返っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者個人の身体・歩行状態により3段階に色分けし、災害時の非難手順を定めている。今年の消防訓練は、簡易担架の作り方・搬送方法を訓練した。又、地域と共同の防災訓練を行なった。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスク面については理解と協力を得ている。リスクが高いと判断される折には家族の面会時及び電話にて報告し、家族と共にその対策について話し合いを行なっている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	看護師の指導を受けながらより速やかに正確な異変の発見に努めている。又、記録の記載と注意点の申し送りを行い、情報の共有に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・効用・副作用等については、一覧表を作成している。個人個人の服薬ケースを用意して間違いの起きないよう支援している。新しい薬の投薬時にはその病状の変化の確認作業をスタッフに義務付けしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	定期的に水分補給を促し、散歩や体操等の軽い運動を積極的に行なっている。又、入浴時には腹部マッサージを行ったり、ホットパックを使用したりして予防に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一部介助・見守りながらの口腔ケアを行なっている。又、毎週歯科往診を受け、より充実した口腔状態の把握に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算等は食材業者の管理栄養士にお願いしている。食事摂取量や水分補給量を記録して健康管理に役立つようにしている。食欲等の減退が見られる利用者には、食事の時間を変えたり調理方法を変えて食欲を促すようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防を目的とした手洗い・うがいの励行、来訪者に対しては玄関前に消毒液を置き協力をお願いしている。又、感染症に関する知識は講習会の受講によって習得し、インフルエンザ等は予防接種を行なっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	作業終了ごとに洗浄と殺菌を行い、衛生管理には最善の注意を払っている。新鮮で安全な食材仕入れは当然の事として使用しているが、3日間の毎食時の食材の一部を万一の時の原因究明のため保管している。又、定期的に食品保管部分の整理を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設と感じられる雰囲気を無くし、玄関周りには花壇や鉢植えを置き親しみのある環境を維持しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階では中庭の見えるリビングに囲炉裏を配置し、その中に昔の玩具を揃え幼い頃の遊びを思い出して頂ける演出を行い、中庭には季節を感じる花等を植え工夫を凝らしている。浴室もガラス越しに見える中庭を作り入浴の楽しさを感じて頂いている。2階は玄関前に坪庭を作り、心の和む雰囲気作りに取り組んでいる。光や音は状況により調整出来る設備としている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の場所・囲炉裏の場所等、居場所の工夫をし、ちょっと離れた場所には応接セットを用意している。利用者は思い思いでその場所を利用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明の中で、使い慣れたものや大切にしているものの持込を推奨している。家族は、お仏壇や写真・テーブル・椅子・タンス等、工夫を凝らして持ち込んでいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビング・居室の換気を行っており、外気温と室温の差を考慮しながら利用者個人の状況に注意を払い空調コントロールを行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	補助用具等の活用はなるべく避け、自分の力で生活が送れるようにしている。2階には利用者の身体機能を考え手すりを設置したが、なるべく使用せず利用者の力とスタッフの補助で生活出来るよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	すぐに手を貸すのではなく、利用者個人の気づきの力を引き出させる言葉かけや張り紙を利用した対応を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭での家庭菜園や玄関周りの植木の水やり、葉っぱの掃除等レクリエーションの一環として行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

社会の一員として、地域の中で生き甲斐のある生活・楽しみのある生活を送って頂けるよう、地元老人会や自治会との交流を深め、協力と理解をより多くいただけるようになった。老人会・自治会より色々な催しについて通知を頂き、参加させていただいております。